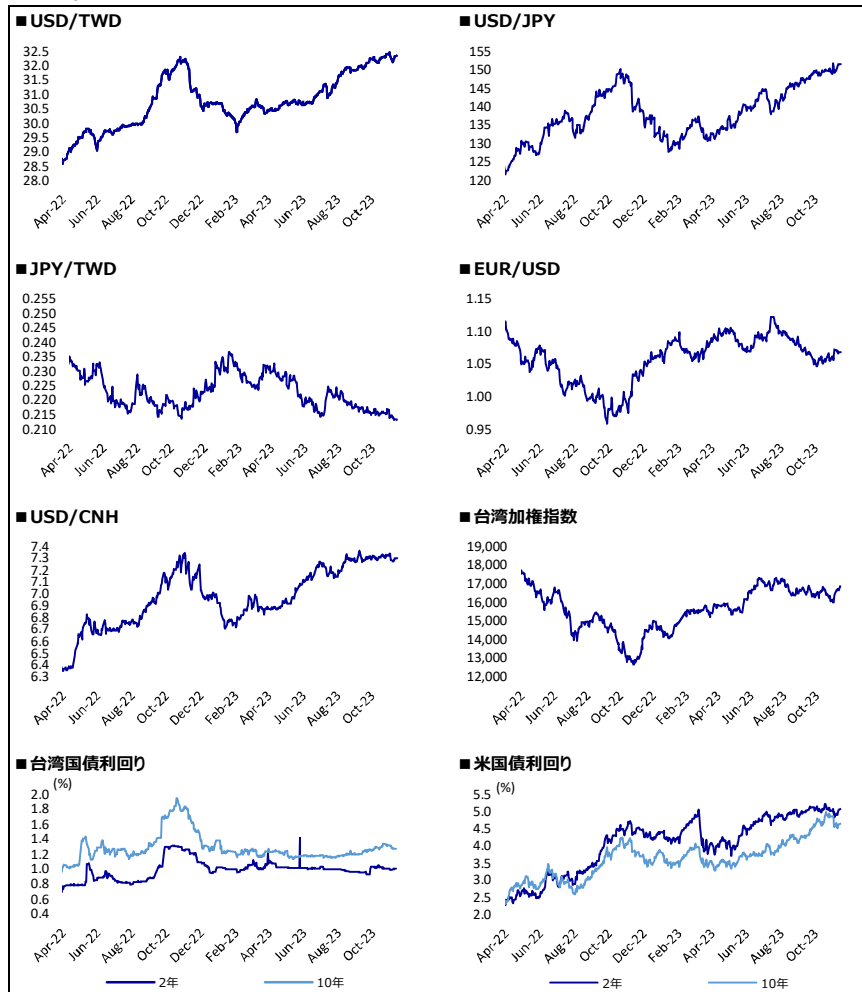


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落後上昇。週初11/6は、前週末に発表された米10月雇用統計の結果が市場予想対比弱い結果となり、米金利が反転低下したことでドル安が進み、ギャップダウンして32.240でオープン。米金利低下を好感した台湾株買いの動きも後押しとなり、一時32.115まで下落する展開となった。11/7は材料のない中、グローバルにドルが買い戻される展開となり32.20を挟み揉み合いの展開。11/8は輸入業者からのドル買いが見られていた他、海外債券ETFへの投資資金送金も見られたことでドル買いが進み、32.25付近まで上昇。11/9はパウエル議長による講演を控え米金利が小動きとなる中、ドル台湾ドルも動意なく、32.25を挟み揉み合いの展開。11/10は前日のパウエル議長講演で改めて政策金利を高く維持するスタンスが確認されたことで、米金利が上昇しドル買い圧力が高まる展開に。外国人投資家による台湾株売りも後押しとなり台湾ドル売りが加速し、最終的には前週比0.2%ドル高台湾ドル安の32.352で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は144.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初11/6は149.28でオープン。東京時間は方向感を欠く展開となっていたが、海外時間に米金利が上昇するとドル買い圧力が強まる展開となり、149円台後半で推移。11/7は米連邦準備制度理事会（FRB）のウォー理事より「米第三四半期GDPは驚異的な実績だった」との発言が聞かれたことも背景となり、ドル買いが進み、150円台前半まで上昇。11/8は米10年国債入札を控え米金利上昇圧力がかったことで、ドル買いが進み150円台後半まで上昇。11/9は米30年国債入札を控え、債券需給環境の悪化が意識され、米金利が上昇に転じた他、パウエル議長講演で「政策金利が十分に抑制的であるかどうかはわからない」との発言が聞かれ米金利上昇が加速し、151円台前半まで上昇。11/10は海外時間に発表された、11月ミシガン大学消費者サーベイにおいて1年先期待インフレ率が4.4%となり、前月の結果を上回ったことを受け、米短期金利上昇が加速しドル円も一時151.60まで上昇した。引けにかけは10月末に付けた年初来高値の151.74を目前に上値が重くなり、最終的には前週比1.4%ドル高円安の151.54で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.250-32.450
今週は揉み合いを見込む。米金利は上昇を再開しているものの、台湾においてもインフレ率が上昇している状況下、12月の台湾中銀に向けて台湾金利も上昇することが見込まれ、ドル台湾ドルは売り買い交錯となりやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：148.50-150.50
今週は上昇を見込む。今週は米国インフレ指標の発表を控えており、物価の高止まりが意識される結果となった場合は米金利上昇、ドル高が続くであろう。

今週の予定

11/6 (MON)	米10月財政収支
11/7 (TUE)	米10月CPI
11/8 (WED)	日第三四半期GDP、米10月PPI、米10月小売売上高
11/9 (THU)	米11月フィラデルフィア連銀景況感指数
11/10 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。